

KINO 徒然通信

2024. 10

みなさまへ

季節が色づきはじめました、真夏の暑さから解放されて気持ちの良い日々ですね。ムービーラインナップ秋の号が出来上がりました。表紙は「海の沈黙」。倉本聰さん原作・脚本による、主な舞台が北海道・小樽、重厚な人間ドラマが描かれています。どうしても書いておきたかったと語るのはずっと抱えてきた大きなテーマ、美術品の贋作。そこから導かれてゆくのは権威的なものではない、真の美の探求— 人の心に灯る情熱、渾身の作品です。

夏にロングラン上映となった「ボレロ 永遠の旋律」から、世界で女性の指揮者は6%という狭き門を目指したのは移民の少女でした、「パリのちいさなオーケストラ」。少女が誰もが楽しめる音楽を届けたいと、様々な垣根を越えて地元でオーケストラを作った実話の映画化です。今年開催されたパリオリンピックでは閉会式でなんと映画のモデルになったザイアさんとディヴェルティメント・オーケストラの演奏がありました。映画の中の少女は、もう大人な、しっかり地に足をつけて音楽で人の心を繋いできたザイアさんの姿でした。とても嬉しい今年の出来事のひとつです。そして、21世紀のクラシック界に彗星のごとく登場した若き指揮者グスターボ・ドゥダメル。激動の祖国ベネズエラの未来のために、世界中の子供たちのために奏で続ける平和へのシンフォニー「ビバ・マエストロ！ 指揮者ドゥダメルの挑戦」。どんな困難な時でもチャーミングな笑顔で世界中の子供たちを抱きしめる、感動のドキュメンタリーです。

まるで山水画の世界のような美しさに圧倒されるでしょう、地獄に堕ちた母を救う息子「西湖畔に生きる」。台湾の町はずれのちいさな理髪店に集う常連さんたち「本日公休」。国境沿いの街を舞台に透き通るような映像美と叙情的な音楽で綴る3人の若者たちの「国境ナイトクルージング」。樹々の狭間から見上げる空に何かを感じるような、10月初めはアジア映画が続きます。

先日いらっしゃったご夫婦が「映画を観るために1日100円、二人で200円ためているんですよ」とおしゃってご覧になる映画の料金を全部100円玉でいただいたのですね。ご夫婦はとても楽しみていらしたようでその様子を、私たちも顔がほころんできました。素敵ですね、子供の頃の貯金箱を思い出して、こんなひらめきを持ってると楽しいなと思いました。ご夫婦は見終わったあと「今度はどの映画にしよう？」そんなお話をされるのでしょうか。キノはこれからそんな楽しみを貯められる映画の居場所になれるといいなと思いました。芸術の秋到来です。

シアターキノ支配人 中島ひろみ